

## Y10c 世界天文年における高校生天体観測ネットワークの取り組み

篠原秀雄（蕨高）、石川勝也（開成学園）、井上哲秀（小倉高）、大西浩次（長野高専）、小田玄（修道中高）、小菅京（東工大附属高校）、高村裕三郎（一宮高）、塚田健（星の子館）、直井雅文（浦和高）、西谷徹（岐阜県博物館）、渡部潤一（国立天文台）ほか Astro-HS 運営委員

高校生天体観測ネットワーク（Astro-HS）は、全国の高校・高専の天文系部活動等を結ぶネットワークで、学校教員や大学・天文台等の研究者、科学館・博物館職員等、天文教育普及活動に携わる有志によって運営されている。2009年度は、北海道から沖縄まで80を超える参加グループがあり、約900人の高校生等が7月22日の日食観測に挑戦した。当日は曇天のところが多かったが、雲間から観測したデータが報告され、参加グループに公開された。これらのデータからは、日食の場所による見え方の違いなどがわかり、教育的利用価値のあるものになっている。年度末には、参加校が顔を合わせて交流をはかる全国フォーラム（広島市内）の開催と集録の発行を予定している。

また、2009年が世界天文年であったことから、参加グループはそれぞれで天文年に関係した取り組みを実施しているところもあった。特に天文部の生徒が中心となって、校内の生徒や地域の市民に対して日食観望会などを実施した例がいくつも報告されている。そこで、Astro-HS参加グループによる様々な活動事例についてもまとめて報告し、高校の中で世界天文年がどのように位置づけられたかをふりかえる。